

2

熊本の子供たちに、これからの社会を創り、未来を豊かに生きていくための力を！

～教育活動の質を向上させ、学習効果の最大化を目指すカリキュラム・マネジメントの推進～

本章の概略

- 「カリキュラム・マネジメント」という言葉が、学校で語られることはありますか。変化の激しい社会を生き抜く子供たちには、社会の様々な課題や問題に、いろいろな知識や技能を使って解決し、納得できる答えや妥当な答えを見つける力などが、ますます大切になります。そのためにも、学校全体で学校教育を通じてよりよい地域社会を創るという目標を共有することが大切になってきます。
- カリキュラム・マネジメントの取組により、一人一人の子供たちが、目の前の学びを通して、自らの学びをマネジメントし、『学ぶ意味』を問いながら、『能動的に学び続ける力』を身に付けていく」という、「熊本の学び」の理念を実現することが期待されます。
- 本章では「つなぐ」をキーワードに、カリキュラム・マネジメントを推進するため、改善・充実の好循環を生み出す「PDCAサイクル」をベースに、次に示す三つの重点について、各学校で取り組む具体例を含め説明します。

重点1 すべての教職員が連携・協働し、目指す子供たちの姿を思い描きましょう

重点2 目指す子供の姿を五者で共有しましょう

重点3 教育活動を定期的に振り返り、更なる充実につなげましょう

まずは、カリキュラム・マネジメントについて整理しましょう

Q1 カリキュラム・マネジメントとは何ですか？

カリキュラム・マネジメントの三つの側面である、

- ①教科等横断的な視点での教育内容等の組み立て
- ②教育課程の評価・改善
- ③人的・物的な体制の確保

を通して各学校の教育活動の質の向上を図っていく営みです。

次に、育成を目指す資質・能力について整理しましょう

Q5 それぞれの学校で重点的に育成を目指す資質・能力とはどのようなものが考えられますか？

例えば、国語力、英語力などのように、教科等の枠組みを踏まえながら育成を目指す資質・能力の他に、教科等横断的に育成を目指すものとしては次のような資質・能力があります。

■学習の基盤となる資質・能力

- ・「言語能力」「情報活用能力（情報モラルを含む。）」
- ・「問題発見・解決能力」等

■現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力

- ・「健康・安全・食に関する力」「新たな価値を生み出す豊かな創造性」
- ・「地域や社会における産業の役割を理解し地域創生等に生かす力」
- ・「自然環境や資源の有限性等の中で持続可能な社会をつくる力」
- ・「豊かなスポーツライフを実現する力」等

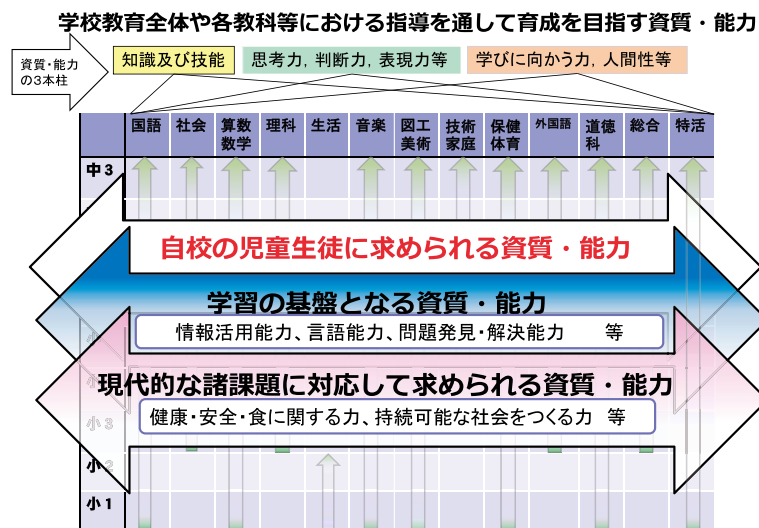
また、次のような資質・能力を設定している学校もあります。

- ・「責任感（与えられた仕事を最後までやり遂げることができる）」
- ・「学習意欲（自分で計画を立てて家庭学習に取り組むことができる）」
- ・「地域貢献の精神」「思いやりやさしさ」
- ・「自分をコントロールする能力」「多様な集団の中で協働できる能力」
- ・「郷土への愛着と世界へ目を向ける国際感覚」等

各学校では、子供たちの課題や地域の実態等を踏まえ、自校の子供たちに育成を目指す資質・能力を設定してください。

Q6 なぜ、教科等横断的な資質・能力の育成が重要視されているのですか？

- 「資質・能力の育成」について、図に表してみると、次のようなイメージです。



- ・ 縦向きの矢印は、「各教科ならでは」の教科の本質に迫る学習を通して各教科等で育まれる資質・能力。
 - ・ 横向きの矢印は、一教科に限定せず様々な教科・領域等で総合的に育成していく汎用的な資質・能力。
- 急激な社会の変化に対応できる、このような汎用的な資質・能力は、一教科で限定的に育まれるものではないことから、改めて教科等横断的な視点で教育課程全体を見渡して育んでいくことが重要となっています。

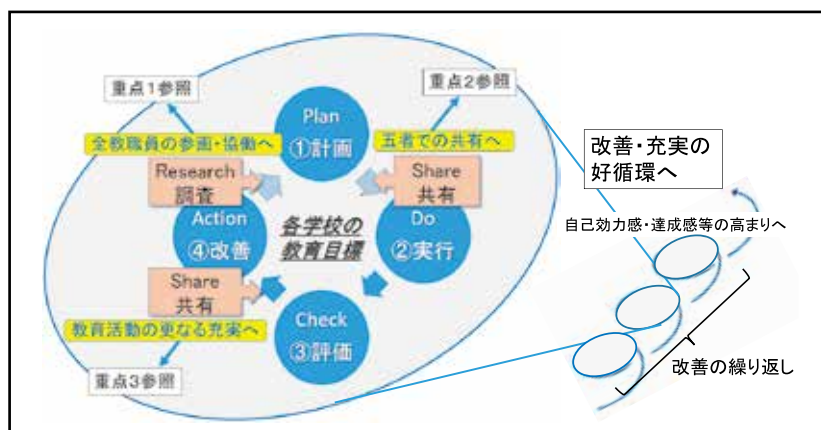
重点1 すべての教職員が連携・協働し、目指す子供たちの姿を思い描きましょう

- 校長が経営の責任者として、「この学校を〇〇のようにしたい」「こんな子供たちを育てたい」という情熱ある思いが示される中、全教職員で、未来のことを思い描くことは、楽しいものです。自校の子供たちを目の前にして、これからの社会を生きていくために大切にしていかなければいけないことは何なのか、考えることはわくわくするはずで
- 一方で、「育成を目指す資質・能力」は何なのか、その育成のためにはどのような手立てを講じるのか、などを明確にした学校の「グランドデザイン」の作成になると、イメージがもちにくく、自校の学校教育目標や計画を設定する作業がとても大変だと感じるかもしれません。
- そこで、現在、各学校で設定されているP D C Aサイクルを整理してみましょう。このことは、教育課程を軸に学校教育の改善・充実の好循環を生み出す「カリキュラム・マネジメント」の実現につながる作業となります。
- 改善・充実の好循環を生み出すためには、一つ一つの取組や資源、関係者をつなぐことから始めることで、取組や役割などの関係性が分かってきます。その過程で、教育活動に重なりがあったり、不足があったり、選択が必要であったりすることが明らかになります。

- 【つなぐ例】
- 学校の実態とつながりのある計画を立てる。
 - 学校の今までの取組と、これからの計画及び取組をつなぐ。
 - 資質・能力を育むために、教科等横断的な視点で、単元と単元をつなぐ。
 - 学校教育目標や学校経営方針などを共有し、五者がつながりをもつ。
 - 教育内容と、地域の人的資源や物的資源をつなぐ。
 - 幼・保等、小、中、高の各学校段階が連携し、それぞれの教育をつなぐ。
 - 実践の成果と課題を評価し、次の実践や改善につなぐ。

- その一つ一つを整理し、意図的・計画的に再構築することで、効率化・重点化が図られ、教職員や子供たちの自己効力感や達成感が得られることにつながります。その過程を繰り返すことで、改善・充実の好循環が生み出されます。図1が、改善・充実の好循環を生み出す「P D C Aサイクル」です。なお、このサイクルは年間だけでなく、単元などのまとまりでも実施することが可能です。

図1 改善・充実の好循環を生み出す「P D C Aサイクル」



- この図中でのポイントは3点あります。
 - ・一つ目は、「計画（P）」の立案です。計画立案前の「調査（R）」も含め、学校総体として全教職員が参画・協働して取り組むこと。
 - ・二つ目は、「実行（D）」前の、計画の「共有（S）」です。計画を実行に移すためには、何を指すのか、何をするのか共有すること。
 - ・三つ目は、「評価（C）」です。改善・充実の好循環を生み出すためには、実施状況や結果の適切な評価を行うこと。
- 本取組の重点1で、図1中の調査から計画の箇所を、重点2で、計画から実行の間の共有に関する箇所を、重点3で、評価から改善における共有の箇所を示していきます。さあ、熊本の未来の創り手となる子供たちに向けての扉をひらきましょう。

（1）目標や計画を設定する上でのポイント

- 何のために作成するのか、目的を全教職員が共有する。
- 全教職員で意見を出し合う場や時間を確保する。
- ワークショップ等、全教職員が意見を出し合える方法を工夫する。
- 子供、家庭、地域の実態や願い及び行政の方針等を踏まえる。

（2）目標や計画設定の手順

○調査（R）……学校、子供、地域等の実態把握及び分析

手順① 次年度の4月からカリキュラム・マネジメントがスタートできるように、年度内に実態把握及び分析を行い、計画（P）を立てる。

【収集する情報の例】

- ・子供たちの姿や学校、家庭、地域の願い（全国学力・学習状況調査や熊本県学力・学習状況調査の結果、児童生徒や保護者へのアンケート、学校評価、教育活動の反省等）
- ・積み重ねられた教育実践（先生方のアイデア、学校文化、児童生徒会の活動、校内研修の取組等）
- ・学校、家庭、地域等の人的、物的資源の実情
- ・地域における学校間の情報共有（目指す姿や課題等）
- ・前年度に整理された成果や課題を踏まえた次年度の方向や方策

学校評価等をもとに、例えばレーダーチャートを作成すると、課題が分かりやすくなります。
各チーム（〇〇部）ごとに、課題とその要因を出し合ひましょう。



情報を収集したら、学校の「強み」「弱み」を整理しましょう。

学校教育の目的や目標に照らして、学校や子供たちが直面している課題を明確にします。

次年度の準備に余裕がもてるように、意図的・計画的に再構築し、効率化・重点化を図りましょう。

計画（P）へ続く

○計画 (P) ……学校教育目標等の策定及び教育課程の編成

手順① 五者で共有できる明確な学校教育目標を設定

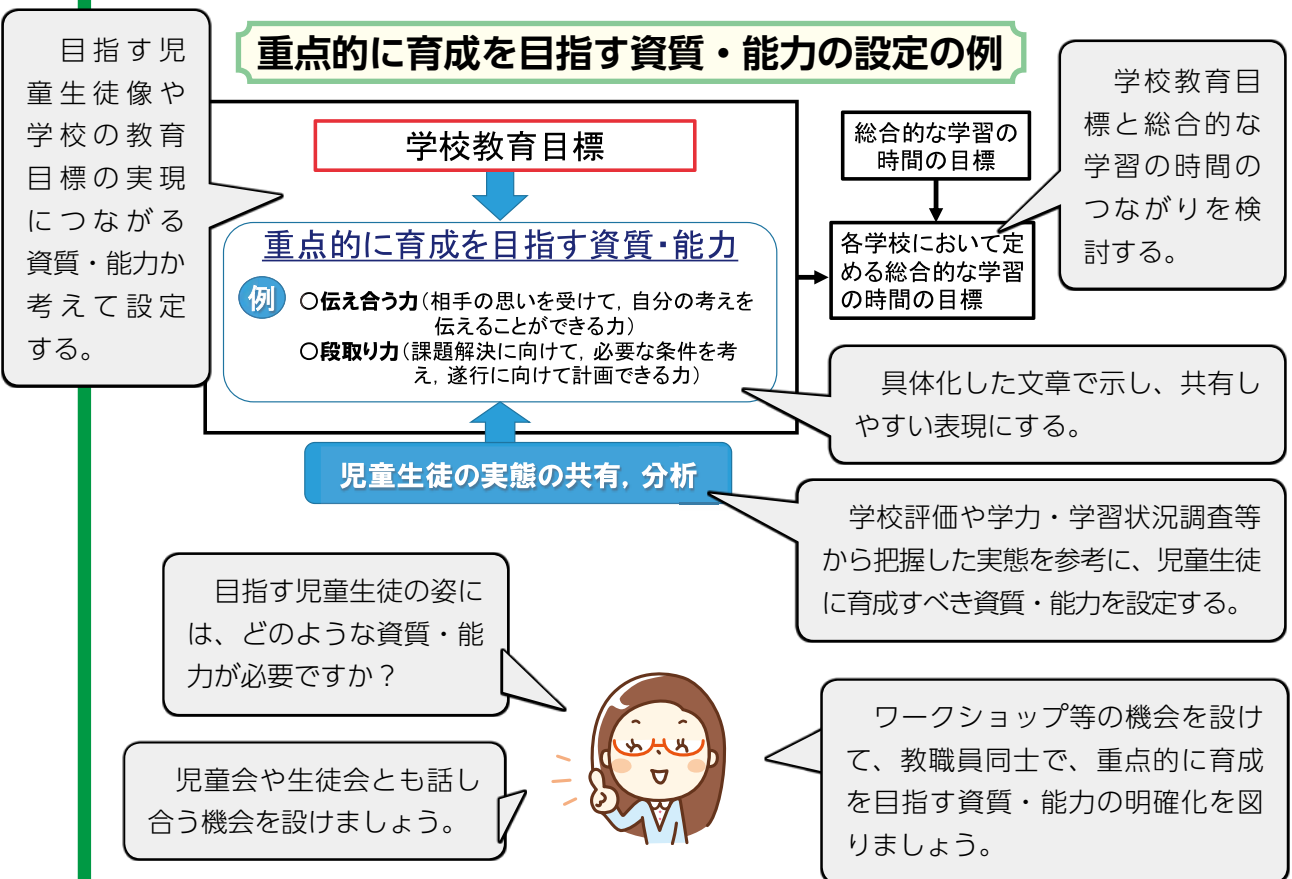


五者で共有できるような分かりやすい言葉で示しましょう。また、目指す児童生徒像を具体的に示すことで、子供も理解しやすい達成したいと思える目標につながります。

手順② 目標達成のために重点的に育成を目指す資質・能力を設定

【各学校の設定例】

多様な集団で協働できる力、未来を予測できる力、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力、健康・安全・食に関する力、論理的思考力、創造性、共感できる力、考えて行動できる力、やり抜く力、自立性（自律性）、社会性（コミュニケーション能力） 等



手順③ 達成に向けた学校経営の全体構想図(グランドデザイン)を作成

※校長のリーダーシップの下、全教職員が関わる

手順④ 手順②で設定した資質・能力を育成し、学校教育目標を達成できるように教科等横断的な視点で教育課程を編成

○共有 (S)・実行 (D) ……目標達成に向けた教育課程の共有、実施

重点3 (2) へ

【グランドデザインのイメージ例】



学校教育目標と重点的に育成を目指す資質・能力、その具体として目指す子供の姿がつながっていることが大切です。

学校教育目標が知・徳・体のみで示され、つながりが分かりにくくなっていませんか。

ポイント

学校教育目標

- 五者が共有できる明確な言葉で学校教育目標を設定する。地域及び児童・生徒の課題を把握し、五者の思いを踏まえて学校教育目標を設定するのが望ましい。

【例】

目指す子供の姿

主体性: 目的をもって進んで考え判断し、責任を持って行動し、最後までやり遂げる子供
協働性: 思いに気づき、目的を共有しながら多様な他者と関わり、協力して行動する子供
創造性: 主体性、協働性を基盤として、新たな考えを創りだし、より豊かに生きる子供

ポイント

自校の子供たちに重点的に育成を目指す資質・能力

- 言語や情報を使いこなす力、情報活用能力、問題発見・解決能力、健康・安全・食に関する力、論理的思考力、創造性、共感できる力、粘り強さ、自立性(自律性)、多様な集団で協働できる力 など、特に育てたい力をキーワードとして示す。
- 取り上げたキーワードを、より具体的な姿で「目指す子供の姿」として定義しておく。

重点取組事項

〇〇部

【例】

- 教科の本質を捉えた学習展開による深い学びの実現
- 家庭学習の充実

〇〇部

【例】

- 自治的な児童・生徒集団の形成
- 考え、話し合う道德の実践

〇〇部

【例】

- 運動に親しむ活動の推進と運動量の確保
- 家庭、地域と連携した生活習慣、食習慣づくり

学校の支援体制（支援チーム）

- 【例】 学級経営、適応指導、生徒指導、特別支援ニーズなどへのサポート

【例】

学校の課題

- ・学力向上(「学び合い活動の推進」はできているが、「家庭学習の充実」に課題)
- ・地域との連携(「地域行事への積極的参加」はできているが、「地域でのあいさつ」に課題)

ポイント

- 学校評価から作成されたレーダーチャート等をもとに、具体的な課題を明らかにしておく。

【例】

経営の基盤

- 保護者(PTA 活動) 子供(児童会・生徒会) 教職員組織
学校運営協議会 地区協議会 〇〇校区幼・保、小、中連携協議会 民生委員…

家庭、子供と学校の組織や取組のつながりを示すことで、目標達成に向けて連携した取組が推進されます。



学校教育目標と目指す子供の姿が、重点取組事項とつながると、教科等横断的な視点をもて、意識した実践につながり、一年間の育ちが分かりやすく、検証や改善に向けた工夫もできるようになります。

【グランドデザインの参考例】 水俣市立水俣第一小学校

水俣市立水俣第一小学校 グランドデザイン

校訓： 虔 賢 健 「 つつしみ かしこく すこやかに 」

学校教育目標

夢を持って主体的に学ぶ、心豊かでたくましい児童の育成

めざす学校像

- 子どもが喜んで登校し、楽しく学ぶ学校
- 一人一人を大切に、優しいの中にも厳しさのある学校
- 明るいあいさつが響き合い、花いっぱい、環境が整備された学校
- 思いやりと信頼に満ち、活気に溢れ、常に前進する学校
- 地域の願いに応え、地域とともにある学校

めざす児童像

- 探究心に溢れ、主体的に学習する子ども
- 思いやりと感謝の気持ちを持って命を大切にする子ども
- 人との関わりを大切に、進んで明るいあいさつ・返事をする子ども
- 元気に遊び、進んでからだを動かす子ども

めざす教師像

- 一人一人を真剣に見つめ、子どもに寄り添い、限らない可能性を伸ばす教師
- 教育愛と誠実さを持ち、子ども・保護者・地域の信頼に応える教師
- 使命感と情熱を持ち、子どもに力をつける教師
- 研修に励み、豊かな教養と指導力のある教師

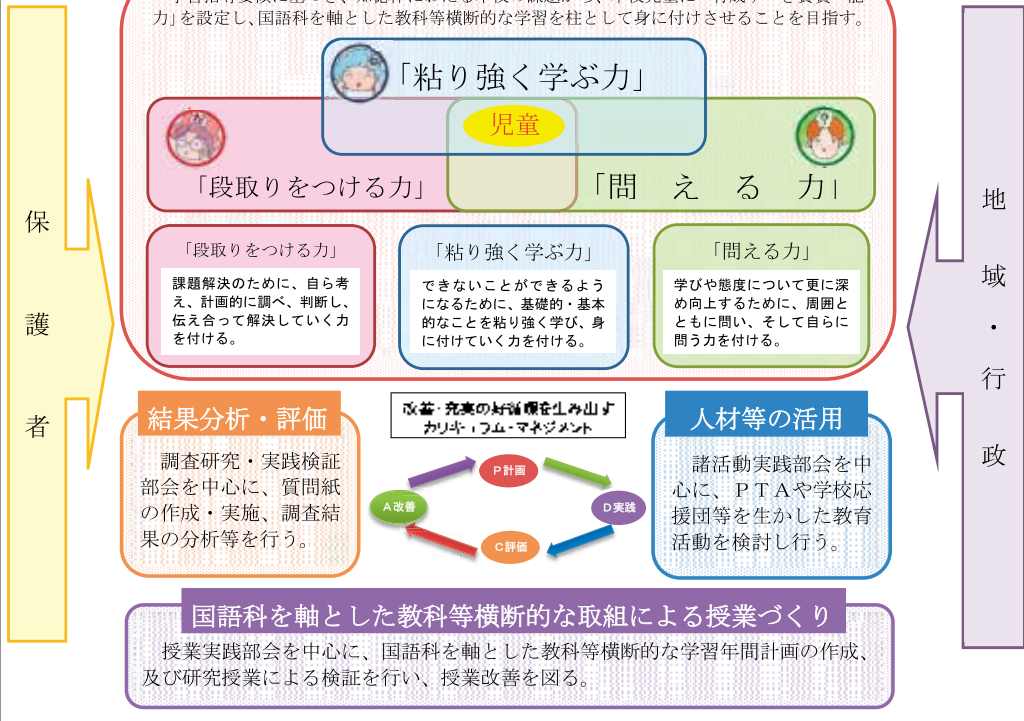
一 小 の 学 び

教育指導に係る重点努力目標

(1) 知識・技能に関わる事項	(2) 思考力・判断力・表現力に関わる事項	(3) 学びに向かう力・人間性等に関わる事項
①基本的学習習慣の定着 ②基本的生活習慣の定着 ③芦北管内統一事項の徹底 ④新体力テストの課題改善 ⑤栄養教諭を活用した「食に関する指導」の実践	①子供に確実に力をつける授業構想力の向上 ②芦北管内統一事項の習熟	①心揺さぶる道徳授業の展開 ②互いに仲の良い学級づくりの推進
読書活動の推進		

重点的に取り組む身に付けさせたい資質・能力

学習指導要領に基づき、知徳体にわたる本校の課題から、本校児童に「育成すべき資質・能力」を設定し、国語科を軸とした教科等横断的な学習を柱として身に付けさせることを目指す。



身に付けさせたい資質・能力が家庭、地域と共有しやすい表現で示されています。同時に、教職員が教科等横断的な視点で資質・能力を育成できるように具体的な文章で補足されています。

令和元年度(2019年度) 益城町立益城中学校 グランドデザイン 《震災後だからこそ、「誇り」と「輝き」を！》

ぬくもりと厳しさを持って、「自分が好き」と思える生徒を育てる

「誇り」を持たせれば生徒は自分で動く！ 「輝き」を持たせれば心は育つ！ 「驚き」を持たせれば生徒は成長する！

学校教育目標

自分に誇りをもち、自ら輝く生徒の育成

学校教育目標

愛情と信頼のある学校 規律と活気のある学校 自信と誇りのある学校

重点目標

相手意識を持って、生徒が自分の言葉で語る授業をつくる



めざす教職員像 楽しい職員集団！

使命感に溢れ、自己研鑽に励む教職員
生徒一人一人を大切にしている教職員
人間性豊かで情熱ある教職員

めざす生徒の資質・能力 自分に誇りをもち、自ら輝く生徒！

自らの気づきで行動できる生徒……「主体性」
周囲の気持ちを考えている生徒……「共感性」
やり遂げることで本物を目指す生徒……「自立心」



めざす学校像 生徒の姿で結果を！

愛情と信頼のある学校 規律と活気のある学校 自信と誇りのある学校

1 生徒指導の充実

基本的な生活習慣の育成、学校・家庭・地域の積極的な連携

2 学力の向上

基本的学習態度の育成、授業力の向上

勝てる勝負をして、目に見える成果を！ 我々は、授業力(積極的な生徒指導)が全て！ 当たり前のことを褒める！ 生徒と一緒にできることを褒める！ 全職員が同じ方向性でメッセージを！

特別活動部

- よりよい学校生活をつくるようとする自主的・実践的態度を養う学級活動
- 自発的・自治的活動を通して、主体的に生きる能力を養う生徒会活動
- 学年・学校への所属感をもたせ、主体的に協力して実施しようとする態度を養う学校行事

Check項目

- 委員会や係の活動に進んで取り組んでいる…60%
- 将来の夢や目標をもっている…70%
- 無言清掃をしっかりと行っている…96%

コミュニティ・スクール

- 益城中学校区非行防止ネットワークを活用して学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールへ移行
- 毎月10日に「学校に行こうデー」を実施し、区長、民生児童委員等との情報交換の場を設定するとともに、地域や保護者とともに生徒を育成
- P.T.Aとの連携及びボランティアの活用

学力向上部

- 対話的な学びを生み出す人間関係づくり
- 主体的・対話的で深い学びを目指す授業実践
- 主体的な学びを生み出す家庭学習の習慣化
- 授業中に、一定の時間を生徒に差し出す、「学びの主体性を創り出すタイム」の活用

Check項目

- 県学力調査において、第1・2学年で県平均を上回る観点の数…70%以上
- 相手意識を持って、自分の言葉で発表している…70%

生活向上部

- あらゆる不合理を見抜き、解決をめざす態度を育成する人権教育の推進
- 道徳の実践力を育成する道徳教育
- 専門機関と連携した組織的・継続的な問題行動及び不登校対策
- 地震後の環境の変化に適応させる見守りと効果的なカウンセリングの計画的な実施

Check項目

- 不登校生徒数…昨年度より減
- いじめの積極的認知と解消…月2件以上

事務部

- 正確・迅速な事務処理と計画的・効果的な予算執行
- 仮設校舎の環境整備と旧校舎解体及び漸次舎建築時期の対策

Check項目

- 校内の環境は整備されている…85%
- 明るく開かれた窓口である…学校運営協議会における協議で評価

生徒と向き合う時間の確保

- 働き方に関する教職員の意識改革
- 部活動の見直し(日課の変更、水曜日をノー部活動デーとして設定)



身に付けさせたい資質・能力が、「～生徒」といったような目指す姿として示されています。また、各部による取組に加え、評価すべきチェック項目が客観的に把握できる内容で設定されています。

重点2 目指す子供の姿を五者で共有しましょう

- 「子供たちにどのような力を付けるのか」といった資質・能力を踏まえた学校教育目標や計画を設定すれば、次は、どのように共有していくかということが大切なポイントになります。教育活動の質の向上を図るために、学校、子供、家庭、地域、行政がつながり、連携・協働するチームとしての取組が求められています。そのために、まずは、学校経営の方針やグランドデザイン等を教職員間で共通理解し、子供、保護者及び地域の方にも繰り返し伝え、共有を図っていきましょう。

(1) 共有する上でのポイント

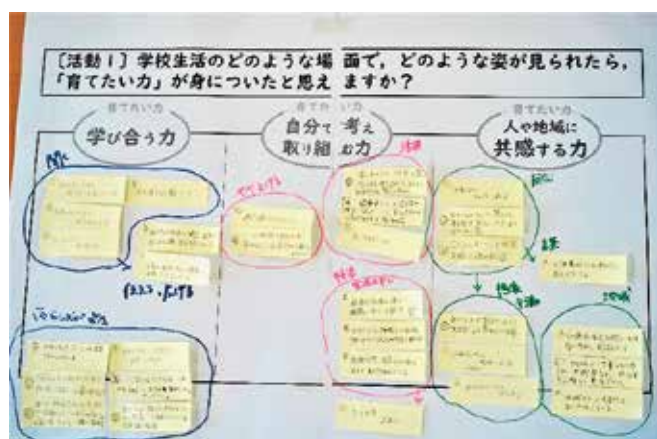
- 誰もが学校の目指す教育を具体的にイメージできる学校教育目標になるよう、簡潔で分かりやすい表現を用いる。
- 「学校教育目標を実現した子供の姿」を具体化して、五者で共有する。
- 五者のそれぞれと共有するための時間や場を設定する。
(懇談会、ホームページ、学校運営協議会等)
- 学校内外で行われる行事等の際は、目指す子供像を共有するための準備や体制を工夫する。

(2) 学校・子供・家庭・地域・行政をつなぎ、共有するために

- 「学校教育目標を実現した児童生徒の姿は？」「その姿を実現するためには？」等について年度当初にワークショップ等、話し合う場を作り、それぞれの教職員が学校教育目標の実現に向けたイメージを具体化して共有します。そのような取組を通して、一人一人の教職員が、学校教育目標の実現を「自分ごと」として捉え、主体的に学校づくりに参画していくことにつながっていきます。
- ワークショップ等は年度当初、あるいは目的に応じて、長期休業日に行ったり、年度末に行ったりしましょう。

【教職員間の共有例】～「学校教育目標について話し合う」ワークショップ～

教職員間で学校の目指す教育を共有するために「学校教育目標や育てたい力について話し合う」ワークショップを行いました。(大津町立大津南小学校)



- それぞれの教職員が、共有した「姿」や「力」を踏まえた実践を行うことで、それぞれの授業や学級、校務分掌における取組と、学校教育目標の実現とのつながりをイメージできるようになります。
- また、教科等横断的な視点による教育課程の編成は、「育成を目指す資質・能力」の観点から工夫する必要がある、そのことを意識することで、より効果的な編成ができるようになります。

単元配列表

総合的な学習の時間の目標												
育てたい資質・能力		①考動力				②共感力				③やり抜く力			
教科・領域	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	国語		[Blue Box]				[Blue Box]				キャッチコピーを考える。		
算数		[Blue Box]		[Blue Box]		[Blue Box]		[Blue Box]		[Blue Box]		[Blue Box]	
社会		[Blue Box]		[Blue Box]		[Blue Box]		[Blue Box]		[Blue Box]		[Blue Box]	
理科		[Blue Box]		[Blue Box]		[Blue Box]		[Blue Box]		[Blue Box]		[Blue Box]	
総合的な学習の時間		[Blue Box]				稲刈りを行い、収穫した米を使った製品を考える。				作った製品を地域の物産館で販売する。			
特別活動		[Blue Box]		[Blue Box]		[Blue Box]		[Blue Box]		[Blue Box]		[Blue Box]	
道徳		[Blue Box]		[Blue Box]		[Blue Box]		[Blue Box]		[Blue Box]		[Blue Box]	
音楽		[Blue Box]		[Blue Box]		[Blue Box]		[Blue Box]		[Blue Box]		[Blue Box]	
図画工作		[Blue Box]		[Blue Box]		[Blue Box]		[Blue Box]		[Blue Box]		[Blue Box]	
体育		[Blue Box]		[Blue Box]		[Blue Box]		[Blue Box]		[Blue Box]		[Blue Box]	
地域との関わり		[Blue Box]				地域の物産館を見学する。				地域の物産館で販売する。			

「育成を目指す資質・能力」をイメージして、単元と単元の間を繋ぐことがポイントです。



単元配列表の作成例について、くわしくはP59～をご覧ください。

- 育成を目指す資質・能力を児童生徒と共有することで、より大きな効果を上げることができます。例えば、「共感力」を「思いやり」という分かりやすい言葉で言い換えたり、子供が「共感力」を働かせたときに、その姿を取り上げて「共感力が高まっているね」と声をかけたりすれば、低学年の児童とも共有することができます。

【児童生徒との共有例】 ～生徒会の活動と共に～

先生が育てたい力を生徒がどのように捉えているのか、生徒会がアンケートを実施してその結果を分析しました。生徒集会でその結果を発表して生徒同士で話し合うことで、生徒自身が「育てたい力」について考え、「自分ごと」として捉える良い機会にすることができました。

生徒たちは、その後、授業や行事などにおける自分たちの学びを「育てたい力」の観点で振り返り、自ら学びの質を高めていくことができるようになりました。

(和水町立菊水中学校)



生徒集会で、生徒自身が「育てたい力」について考える

- また、PTA総会や学校運営協議会など学校が保護者や地域の方に話す機会に、「育成を目指す資質・能力」についての話題を分かりやすく、繰り返し取り上げていくことで、子供たちだけでなく、保護者や地域の方とも目指す子供の姿を共有できるようになります。
- 家庭や地域に向けて発信する際も、「育てたい力」のような分かりやすいフレーズを用いながら、繰り返し発信することで、学校が目指す教育について保護者や地域が理解を深め、それぞれの立場で実践をすることができ、目標や目的が明確な連携・協働した取組につなげることができます。

【保護者・地域との共有例】 ～通信等を通して発信～

年度当初のPTA総会や学校運営協議会等において、グランドデザインを「育てたい力」に焦点化して具体的に説明することで、保護者や地域に分かりやすく紹介しています。

(玉名市立玉水小学校)



通信の一部を使って発信

PTA新聞や学校便り、ホームページ等において「育てたい力」をキーワードとして、繰り返し発信することで、年間を通した共通の話題にしています。

(玉名市立横島小学校)



HPを使って発信

- 地域の方と合同で行う活動についても、「育てたい力」を地域の方に事前に説明し、目指す子供の姿を共有しながら取り組むことで、資質・能力が育まれる活動にすることができます。

【保護者・地域との共有例】 ～地域の活動にボランティアとして参加～

地域で行われているマラソン大会で、地域の行事に貢献するためにボランティア活動を行っています。

本年度は、ボランティア活動を通して「共感力」を育てることを児童や地域の方と共有し、学校教育目標の実現につながる充実した活動にすることを目指しています。

(玉名市立横島小学校)



地域の行事に参加

重点3 教育活動を定期的に振り返り、更なる充実につなげましょう

- 子供たちの学びの姿や教育活動の実施状況を振り返り、改善・充実を図りながら教育活動や学校運営に取り組むことで、教育活動の質が高まっていきます。教育活動や学校運営の改善・充実を図るためには、学校評価をカリキュラム・マネジメントと関連付けながら複数回実施する必要があります。そのためには、評価の観点に教育課程に関する項目を位置付けたり、改善を見通して評価を定期的実施したりするなど教育活動と学校評価が繋がっていることが大切です。

(1) 学校評価を実施する上でのポイント

～評価項目～

評価項目に、教育課程・学習指導に係る項目、教育課程を効果的に実施するための人的又は物的な体制の確保の状況、PDCAサイクルの実施状況など、カリキュラム・マネジメントの推進状況を加えます。評価項目は、学校経営の構想や教育課程の編成方針と整合性・関連性を図りましょう。また、評価項目については、「学校評価ガイドライン」を参考に作成してもよいでしょう。

「学校評価ガイドライン[平成28年改訂]」(文部科学省)

- ・具体的にどのような評価項目・指標等を設定するかは各学校が判断
- ・評価項目等の設定について、検討する際の視点が12分野にわたり例示
- ・各学校は、例示された項目を網羅的に取り入れるのではなく、その重点目標を達成するために必要な項目・指標等を精選して設定

～評価の実施時期～

評価結果に基づき学校運営の改善を図るため必要な措置を講ずることができるように、PDCAサイクルの中に、複数回の評価を位置付けましょう。評価は定期的実施し、結果等から教育目標の実現状況や教育課程の実施状況を確認、分析して課題となる事項を見だし、改善方針を立案して実施していくことが求められます。また、次年度の計画を作成する時期に実施し、評価の結果を次年度の取組に反映することも大切です。行事後の評価、日常の教育活動の評価及び学力調査後の評価など、学校の実態に応じて工夫しましょう。

～評価の対象者～

学校、子供、家庭、地域、行政（五者）が、協働して子供の教育に取り組む意識を高めるために、それぞれに応じた内容でアンケート等を実施することも効果的です。

～評価の公表と改善～

授業参観、説明会、学校便り、学年便り、学級便り、ホームページ等を活用し、日常のかつ積極的に情報提供しましょう。また、次への改善はどうするのか、計画を立て実施することも重要です。

(2) 学校評価の流れ (改善・充実のために)

重点1 (2) より

○実行 (D)



計画を実行に移すためには、何を指すのか、何をするのかを共有 (S) することが大切です。評価後に、改善案を検討する際も、結果を共有し、具体的な改善案へつなげていきます。

○評価 (C) ……実態に応じた計画的な学校評価

手順① 評価時期における評価の実施 (C)

【学校評価例】

・各教科等の授業の状況、教育課程等の状況、職場体験活動の実施状況等のアンケート、子供や保護者へのアンケート 等

○共有 (S)・改善 (A) ……結果の共有 (公表)、次への改善

手順① 学校評価の結果の共有 (S)

【共有の場】

授業参観などの学校公開時
地区懇談会、学校運営協議会、全校集会等
各種便り (学校便り、学年便り、学級便り等)

手順② 次に向けての改善 (A) *評価項目を含む

○調査 (R)、計画へ (P) ……改善に向けた調査、改善された計画 (P15に戻る)



計画を立てる前には、調査を行的に状況を把握し実態をつかむことは大切です。把握することで、今、重点的に取り組むことが何か明確となり、具体的な取組につなげることができます。

【評価から改善・計画につなげる例】 ～行事の直後に振り返り～

教育活動の評価 (防犯教室の例)

・悪いことをする人は顔を見られるのを嫌うため、手を出しにくくなる。(挨拶は顔を見てするから)

【直後プラン】

○全体指導や地区ごとの指導という流れがよかった。
○期日を休み前に移動したらどうかという意見もある。
△「一人にならない」という設定は無理がある。「むしろ一人になった時」の対応策を考えたほうがいい。
「110番の家」の周知等。

行事の直後に振り返りを行うことでより具体的な改善・計画へ
〈例〉直後プランの実施と記録

【学校教育目標につなげる例】 ～行事計画作成時の目的に学校教育目標の項目を記入～

令和〇年度 第1回 〇〇教室実施計画書

令和〇年〇月〇日

〇〇教育担当

1 目的

- (1) 児童の健康への関心・意欲を高め、心身ともに健やかな児童を育成するために、健康に関する情報を提供し、よりよい生活習慣の定着を図る。**(考動力)**
- (2) 各種委員会や児童による発表の機会を設定し、発信する側にも保健の知識を深く理解させる。また、受け手側には、日常生活との関連を意識させることで、より効果を高める。**(共感力)**

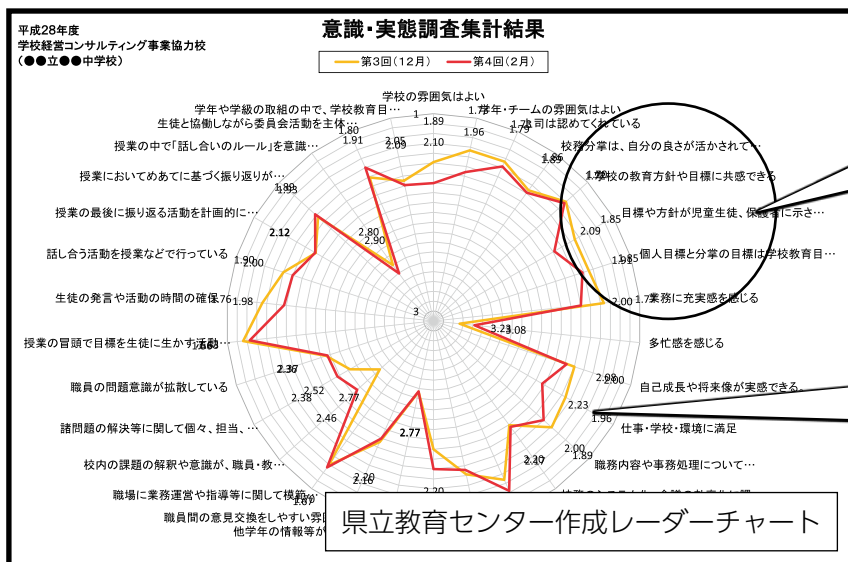
学校教育目標と重点的に育成を目指す資質・能力を常に意識した取組へ
〈例〉「共感力」といったように目指す資質・能力につながる語句の使用

【評価から改善・計画につなげる例】 ～レーダーチャートを利用～

12月と2月に学校評価（アンケート）を行ったもの（C）を比較

→職員会議等で共有（S）

→項目毎に見直し、改善（A）と次の計画（P）につなげることが大事



関連する項目ごとに振り返りを行うことでより具体的な改善・計画へつながります。

複数回の記録を重ねることで、項目の変化が可視化されて見直しのヒントにつながります。

【項目例】	質問例	【項目例】	質問例
職場環境	○学年・チームの雰囲気はよい ○学校の教育方針や目標に共感できる 等	授業	○授業の最後に振り返る活動を計画的に取り入れている ○生徒の発言や活動の時間を確保している 等
自律性	○業務に充実感を感じる ○自己成長や将来像が実感できる 等	学校独自	○重点取組事項 ○共通取組事項 等
協業性	○課題に対してチームで取り組むことができる ○校内研修において学校総体で動いている雰囲気がある 等		